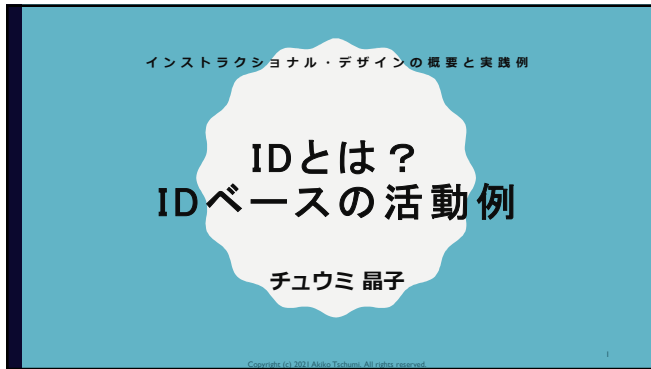


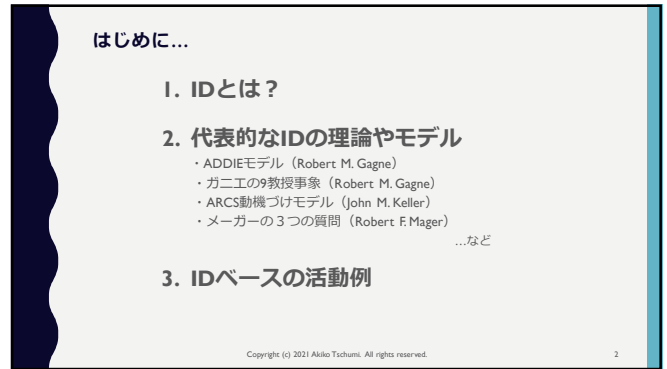
会員発表「インストラクショナルデザインの概要と実践例」

「IDとは？IDベースの活動例」

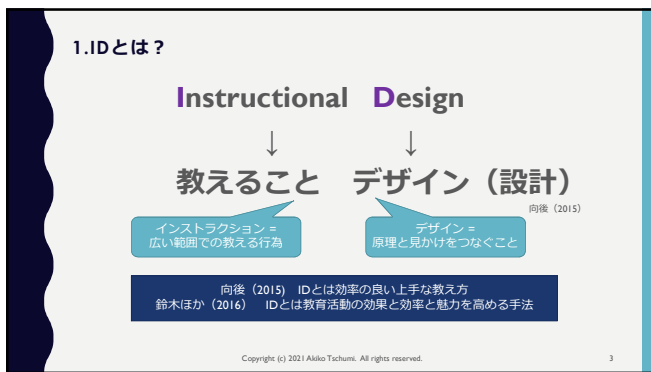
チュウミ 晶子



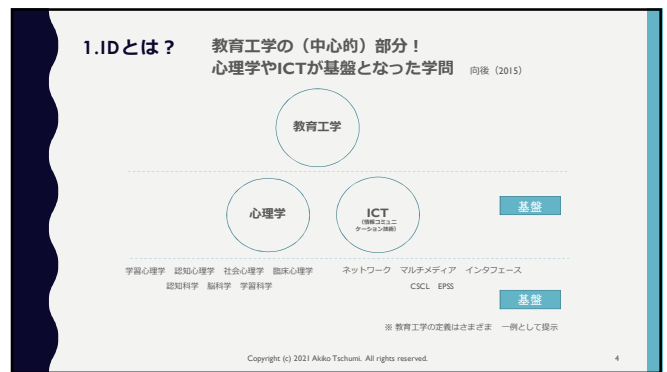
1



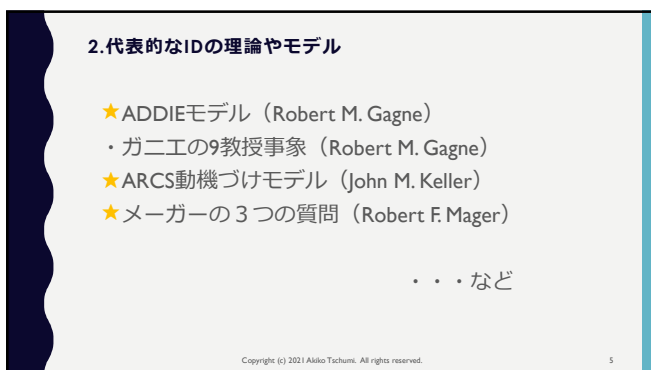
2



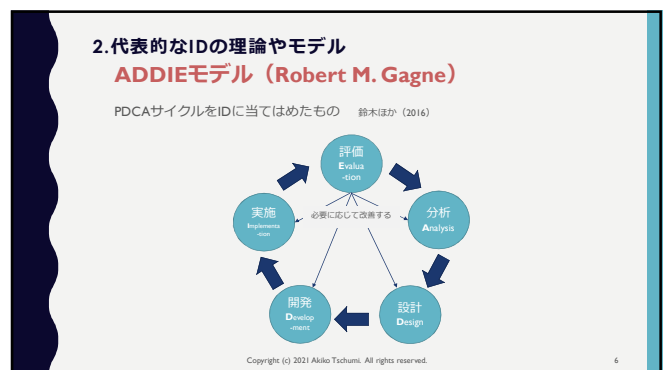
3



4



5



6

2. 代表的なIDの理論やモデル ガニエの9教授事象 (Robert M. Gagne)

授業や教材に組み込むと効果的な9つの活動！ 鈴木ほか (2016)

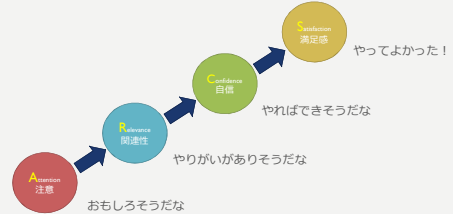
導入	事象1	学習者の注意を獲得する
	事象2	授業の目標を知らせる
	事象3	前提条件を思い出させる
情報提示	事象4	新しい事項を提示する
	事象5	学習の指針を与える
学習活動	事象6	練習の機会をつくる
	事象7	フィードバックを与える
まとめ	事象8	学習の成果を評価する
	事象9	保持と転移を高める

Copyright (c) 2021 Akiko Tschumi. All rights reserved.

7

2. 代表的なIDの理論やモデル ARCS動機づけモデル (John M. Keller)

授業や教材を魅力あるものにするためのアイデアを整理する枠組み！ 鈴木ほか (2016)



Copyright (c) 2021 Akiko Tschumi. All rights reserved.

8

2. 代表的なIDの理論やモデル メーガの3つの質問 (Robert F. Mager)

授業設計の考え方を示す3つの問い！ 鈴木ほか (2016)

Where am I going?
(学習目標：どこへ行くのか?)

How do I know when I get there?
(評価方法：たどり着いたかどうかを どうやって知るのか?)

How do I get there?
(教授方法：どうやってそこへ行くのか?)



Copyright (c) 2021 Akiko Tschumi. All rights reserved.

9

3. IDベースの活動例 ーどう設計した？①ー

一番興味を持ったモデルは「ARCS動機づけモデル」(John M. Keller)
これを使って、魅力的な授業にしよう！

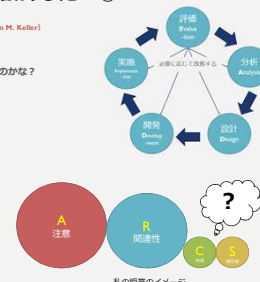
↓
ARCSの要素をもつ活動ネタをそれぞれ考えることができるのかな？
ん？待てよ... 不効率なのでは？

↓
ADDIEモデル (Robert M. Gagne) に沿って
自分の授業をチェックするところからはじめよう！

↓
【分析】自分の授業はARCS動機づけモデルのAとRに
当てはまっていることが判明！
CとSを強化するのはどうしたらいい？

↓
【設計・開発】「評価」を取り入よう！
できたことを数値化 (テスト)
または、言語化 (FB) する

↓
毎回の授業、または繰り返りのタイミングで取り入れる



Copyright (c) 2021 Akiko Tschumi. All rights reserved.

10

3. IDベースの活動例 ーどう設計した？②ー

毎回の授業、または繰り返りのタイミングで取り入れる

【実施】

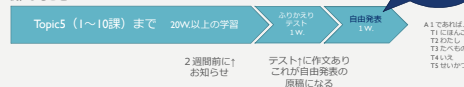
活動のタイミング： 振り返りテストの後 例、Topic5と9のあと

活動の内容： ARCS動機づけモデルがベースになる

「自由発表」をとり入れる

実践したクラス：「まるごと-日本のことばと文化」で勉強している
A1入門クラス～A2/B1初中級クラス

例) まるごとA1



振り返りテストで7割以上を
組み合わせて3分程度の発表
写真も活用

Copyright (c) 2021 Akiko Tschumi. All rights reserved.

11

3. IDベースの活動例 ーどう設計した？③ー

【実施】 つづき (発表当日)

1. 発表の順番を決める
2. 発表前に、課題を2つだしておく
 - ・クラスの仲間の発表内容や写真について質問を2つ考える
 - ・簡単なコメントシート (評価) を配布する
 - 発表のどんな点が良いと思ったかをドイツ語/日本語で記録する
3. 自由発表
4. 発表後 コメントシートを発表者本人に渡す
5. 授業後 自由発表についてのアンケートをする

インタラクティブな活動にするため

発表のFBが学習者への評価

授業を設計した教師への評価 (ADDIEモデルの評価にある)

大切にしていること： 教師のコメントシート (評価) は、自分にかみ合わないエッジの利いたコメントを！



Copyright (c) 2021 Akiko Tschumi. All rights reserved.

12

3.IDベースの活動例 ARCS動機づけモデル「自由発表」の様子

Copyright (c) 2021 Akiko Tschumi. All rights reserved.

13

3.IDベースの活動例 ARCS動機づけモデルをベースとした「自由発表」には…

Copyright (c) 2021 Akiko Tschumi. All rights reserved.

14

3.IDベースの活動例

さらに... Deci & Ryan (2002) の自己決定論の基本的心理欲求にも合致！
有能性の欲求・自律性の欲求・関係性の欲求

【評価】
学習者のコメント

- 「クラスの仲間の発表がおもしろかった、とても良かった。」 (M.Kさん 男性 2019.12)
- 「発表後の質問がすごい勉強したけど、たのしかった。進んだトピックがうまくつながらず、悪くなかったと思う。」 (N.Kさん 女性 2019.12)
- 「発表者の家族や生活について知ることができて、良かった。」 (A.Aさん 女性 2019.12)
- 「クラスメイトの発表を聞いて、間違えていると気づけたとき私は人の間違いを指摘できるほど成長したんだと思えた。」 (A.Aさん 女性 2019.12)
- 「仲間や先生からポジティブなコメントを貰えて、うれしかった。」 (N.Sさん 女性 2020.09)
- 「10課までの勉強で発表できると思っていなかったもので、話すことができて、自信が持てた。」 (R.Eさん 男性 2020.09)

Copyright (c) 2021 Akiko Tschumi. All rights reserved.

15

3.IDベースの活動例 デザインのまとめ (原理:3つの理論 + 見かけ:自由発表)

ベースとしたIDの理論やモデル	★ ADDIEモデル ★★★ ARCS動機づけモデル ★ メーガの3つの質問
ADDIEモデル	モデルに沿って設計 その際を使用したもの 【分析】・【設計・開発】 → ARCSモデルを使用 【実施】 → 「自由発表」 【評価】 → 授業アンケート
ARCS動機づけモデル	「自由発表」にARCSの上位概念の要素が入るからにチェック Attention 【注意】 知覚的喚起や変化性があるか？ Relevance 【関連性】 本人に関連し、親近感を持つ内容か？ Confidence 【自信】 高すぎず、低すぎないゴール設定か？ Satisfaction 【満足感】 肯定的な結果となるか？
メーガの3つの質問	【学習目標】 既習事項を使って一つのストーリーにして発表できる 【評価方法】 参加者・教師からFB 教師からは学習目標が達成できたかもFB 【教授方法】 作文チェックと「自由発表」という場の提供 → 今回の場合は、授業環境の設定

Copyright (c) 2021 Akiko Tschumi. All rights reserved.

16

引用文献

Deci, E. L. & Ryan, R. M. (2002). Handbook of self-determination research. Rochester, NY: University of Rochester Press.

福垣忠・鈴木克明(2015).授業設計マニュアルVer.2—教師のためのインストラクショナルデザイナー— 北大路書房

向後千春(2015).上手な教え方の教科書インストラクショナルデザイン 技術評論社

鈴木克明監修・市川尚・根本淳子編著(2016).インストラクショナルデザインの工具箱101 北大路書房

Copyright (c) 2021 Akiko Tschumi. All rights reserved.

17